

Back Number

本論文は

世界経済評論 2021年9/10月号

(2021年9月発行)

掲載の記事です



世界経済評論

定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料

OFF

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読
期間中

デジタル版バックナンバー読み放題!!



世界経済評論 定期購読



☎0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

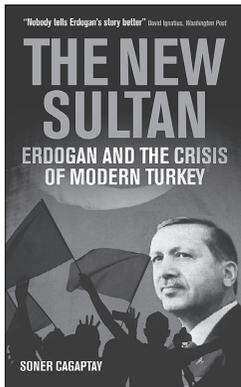
Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp

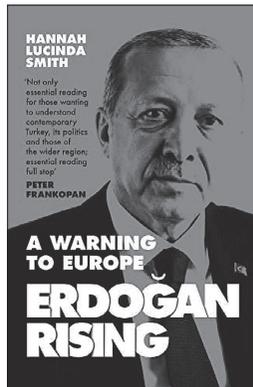
雑誌のオンライン販売

The New Sultan : Erdoğan and The Crisis of Modern Turkey Erdoğan Rising : A Warning to Europe

ITI 客員研究員 夏目 美詠子



[著者] Soner Çağaptay
[発行] I. B. Tauris, 2020
年 (増補改訂版)
[判型] Paperback
[価格] 1,400 円程度



[著者] Hannah Lucinda
Smith
[発行] William Collins,
2019 年
[判型] Hardcover
[価格] 3,400 円程度

2022 年、トルコの公正発展党 (AKP) 政権は 20 年目を迎える。初代大統領アタチュルクが結成した共和人民党 (CHP) 政権 (1923~50 年) に次ぐ長期政権だ。しかしその前半と後半で政権運営の様相は大きく異なる。2002~11 年に経済は年平均 7% 超の高成長を維持 (09 年を除く)、国民の所得は倍増し、AKP 政権は住宅供給や医療制度改善など社会福祉の拡充を図った。通貨が安定し、インフレや失業率が抑制され、消費ブームに沸くトルコには、堰を切ったように外資が流入した。EU 加盟交渉に臨み、イスラム的規範を重視しながら民主化やクルド問題解決に取り組む AKP 政権を、米欧

はロールモデルと持ち上げた。しかし 2011 年以降、経済は減速、政権を率いるレジェupp・タイプ・エルドアン首相 (後に大統領) は反対勢力の粛清、言論の自由抑圧など強権姿勢を強めていく。

こうしたトルコ政治の暗転がどのような経緯で起きたのか、ここで紹介する 2 冊は異なるアプローチでそれを解き明かそうとする。

Çağaptay の主張は明快だ。エルドアンの目標は、政権掌握以来一貫してアタチュルクを凌駕する全能の指導者となることであり、政権前半の民主主義や新自由主義推進は、政敵打倒のための生存戦略だったと断じる。民主化は過去 4 度クーデタを起こした軍の弱体化のため、クルディスタン労働者党 (PKK) との和平交渉は、大統領選や憲法改正に向けたクルド票確保のためだった。軍との闘争では、司法・警察に浸透した「ギュレン運動」と組んでクーデタ計画を捏造・暴露してとどめを刺したが、自身を脅かすほど強大化した「運動」も後に排除した。2011 年以降シリア内戦でクルディスタン民主統一党 (PYD) が勢力を拡大し、2015 年選挙で人民民主党 (HDP) がクルド系政党として初めて国会議席を得ると、エルドアンは和平交渉を放棄、クルド票を切り捨てた。代わりに民族主義者行動党 (MHP) との協調で、議院内閣制から大統領制に移行する憲法改正を実現、反対勢力を悉く封殺する強権体制を確立した。

Çağaptay がトルコ現代史を紐解きつつ辿ったこの過程を、Smith は The Times 記者として、取材やインタビューを通して描いている。Smith は選挙集会やデモの空気を臨場感豊かに伝えながら、事実報道と自己検閲の葛藤、投獄・国外追放の恐怖を隠さない。そして両者ともに、エルドアンの中核をなすのは、敬虔なムスリムを政治・社会の主流から疎外してきた世俗主義へのルサンチマンだと指摘する。国民の半数を敵視し、分断する強権体制に安定も未来もない。しかし「エルドアン後」への明確な展望も示されていない。

(なつめ みえこ)